

令和8年用さくらんぼ病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項(収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴							
① 発芽直前まで	カイガラムシ類幼虫 カイガラムシ類(ハダニ類)	1. 水(98ℓ)				1. 石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を散布する場合は、本防除の10日以上前に実施する。 発芽前、ハーベストオイル50倍に石灰硫黄合剤10倍を加用するときは、水にハーベストオイルを加え、十分攪拌後に石灰硫黄合剤を加え攪拌し速やかに散布する。								
		2. アプロードフロアブル1,500倍(66mℓ)	7日前まで	2回以内	300~400ℓ	2. ハーベストオイルに替えてスプレー油50倍(発芽前、-)を使用してもよい。 防霜対策資材	散布日 月 日 散布量 ℓ							
		3. ハーベストオイル50倍(2ℓ)	発芽前	-		<table border="1"> <tr> <th>散布時期</th><th>資材名及び濃度(100L当たり液量)</th><th>使用時期</th></tr> <tr> <td>発芽前~展葉期</td><td>霜ガード 50倍(2kg)</td><td>・発芽前から展葉期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。 ・正午~午後3時までの気温の高い時間帯で散布を行いましょう。 ※-2℃程度の低温への効果が認められます。</td></tr> <tr> <td>開花直前~満開期</td><td>アイスバリア 333倍(300ml)</td><td>・開花直前から満開期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。</td></tr> </table>	散布時期	資材名及び濃度(100L当たり液量)	使用時期	発芽前~展葉期	霜ガード 50倍(2kg)	・発芽前から展葉期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。 ・正午~午後3時までの気温の高い時間帯で散布を行いましょう。 ※-2℃程度の低温への効果が認められます。	開花直前~満開期	アイスバリア 333倍(300ml)
散布時期	資材名及び濃度(100L当たり液量)	使用時期												
発芽前~展葉期	霜ガード 50倍(2kg)	・発芽前から展葉期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。 ・正午~午後3時までの気温の高い時間帯で散布を行いましょう。 ※-2℃程度の低温への効果が認められます。												
開花直前~満開期	アイスバリア 333倍(300ml)	・開花直前から満開期までの間で霜注意報が発表された場合、散布しましょう。												
(風せん状)	灰炭星病 幼果菌核病	1. トレノックスフロアブル500倍(200mℓ)	21日前まで	5回以内	400ℓ	1. ハマキムシ類が多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ							
③ 満開3日後	灰星病 幼果菌核病	1. オーシャインフロアブル3,000倍(33mℓ)	前日まで	5回以内		1. ハマキムシが多い園では、バイオマックスD 2,000倍(発生初期但し、前日まで、-)を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ							
	炭そ病 褐色せん孔病	2. オーソサイド水和剤80800倍(125g)	3日前まで	5回以内	500ℓ	2. バイカルティ1,000倍を加用してもよい。 3. 降雨が続いた場合、トップジンM水和剤1,500倍(14日前まで、3回以内)を追加で散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ							
殺虫剤、除草剤の制限		訪花昆虫を保護するため、4月下旬(マメコバチ等活動期)からミツバチ巣箱撤去時期まで殺虫剤、除草剤の散布はしない。												
巢箱満開撤去日後	ハマキムシ類	1. 展着剤(ハイテンパワー)10,000倍(10mℓ)				1. コアオカスミカメの発生が多い園では、ウララ DF 2,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。								
		2. パスワード顆粒水和剤1,500倍(66g)	前日まで	2回以内	500ℓ	2. コスカシバが多い園では、スカシバコンLを100本/10a設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ							
		3. オーソサイド水和剤80800倍(125g)	3日前まで	5回以内		3. ダイアジノン水和剤34劇に替えてアグロスリン水和剤劇1,000倍(3日前まで、2回以内)を使用してもよい。								
		4. ダイアジノン水和剤34劇1,000倍(100g)	14日前まで	2回以内		4. ファイトカル1,000倍を加用してもよい。								
5月中旬下旬	カイガラムシ類 コアオカスミカメ	1. トランスフォームフロアブル2,000倍(50mℓ)	3日前まで	3回以内	500ℓ	1. ウメシロカイガラムシは年によって発生時期が異なるため、発生状況を確認し防除する。 2. 早生種の収穫時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。 3. トランスフォームフロアブルに替えてモベントフロアブル2,000倍(7日前まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ							
⑤ 5月下旬	灰炭星病 褐色せん孔病	1. オンリーワンフロアブル2,000倍(50mℓ)	前日まで	3回以内	500ℓ	1. ハマキムシ類が多い園では、ハマキコン- Nを150本/10a設置する。 2. ファイトカル1,000倍を加用してもよい。 その際、リン酸の含まれる葉面散布剤は使用しない。 3. ダニオーテフロアブルに替えてダニコングフロアブル2,000倍(前日まで、1回)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ							
	カイガラムシ類 オウツウショウジョウバエ	2. モスピラン顆粒水溶剤劇2,000倍(50g)	前日まで	1回										

耕種的防除

さくらんぼ施肥基準(成木: 10a当たり) どちらかの体系を選択する。

●さくらんぼ専用一発肥料体系(省力化労力軽減)

肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
さくらんぼ有機一発80	80~100kg	7月上旬(収穫後)	9.6~12.0	1.6~2.0	1.6~2.0

●礼肥+基肥体系

作型・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
雨よけテント 600kg (紅秀峰600kg)	燐硝安加里S 248 (わかみどり)	10~20kg (紅秀峰: 25kg)	7月上旬(収穫後)	2.0~4.0 (5.0)	0.4~0.8 (1.0)	0.8~1.6 (2.0)
	フレッシュフルーツ有機70 (紅秀峰50kg)	60~80kg (紅秀峰: 50kg)	8月中下旬	6.0~8.0 (5.0)	3.0~4.0 (2.5)	1.2~1.6 (1.0)
合計				8.0~12.0 (10.0)	3.4~4.8 (3.5)	2.0~3.2 (3.0)

おうとう樹脂細菌病予防対策

- 晩秋期(11月以降)のICボルドー66D40倍(発病前~発病初期、-)、休眠期の石灰硫黄合剤10倍(発芽前)の散布を欠かさない。
- 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を木質部まで達するように、健全部を含め削り取り、トップジンMペースト(病患部削り取り直後、3回以内)またはバッチャレート(病患部削り取り直後、3回以内)を塗布する。
- 適正樹勢の維持に努め、防風ネットを設置する。
- 未結果樹は発芽後から落葉後まで、ICボルドー66Dを主体に、幹にも丁寧に散布する。また、4月中旬~5月上旬にマイコシールド1,500倍(7日前まで、2回以内)を散布してもよい。なお、耐性菌出現防止のため、連用は避ける。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
⑥ 6月 上旬	灰星病	1. カナメフロアブル劇4,000倍(25mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. オウトウショウジョウバエの被害果実を確認した場合は直ちに摘み取り処分し、下記を参考に防除を行なう。 2. 収穫にあたっては、樹上に果実を残さないようにするとともに、落果した果実は適切に処分し、園地の清掃を図る。 ●収穫前日まで使用できる殺虫剤(オウトウショウジョウバエ対策)	散布日 月日 散布量 ℓ
	オウトウショウジョウバエ	2. スタークル顆粒水溶剤2,000倍(50g)	前日まで	2回以内			
	ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル2,000倍(50mℓ)	前日まで	1回			
⑦ 6月中旬	灰星病 黒斑病	1. ベランティーフロアブル8,000倍(12mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	系 統 合成ビレスロイド剤 ネオニコチノイド剤 ジアミド系	散布日 月日 散布量 ℓ
	オウトウショウジョウバエ	2. エクシレルSE2,500倍(40mℓ)	前日まで	3回以内			
⑧ 6月下旬	灰星病 褐色せん孔病 炭そ病	1. ナリアWDG2,000倍(50g)	前日まで	3回以内	400ℓ	3. 「紅秀峰」の収穫が7月中旬まで続く場合、上記殺虫剤のいずれかを散布する。 4. カナメフロアブルに替えてパレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ
	ショウジョウバエ類	2. テルスターフロアブル劇3,000倍(33mℓ)	前日まで	2回以内			
	炭そ病 褐色せん孔病	1. オンリーワンフロアブル2,000倍(50mℓ)	前日まで	3回以内			
⑨ 7月上旬	オウトウショウジョウバエ	2. サムコルフロアブル102,500倍(40mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	3. 「紅秀峰」の収穫が7月中旬まで続く場合、上記殺虫剤のいずれかを散布する。 4. カナメフロアブルに替えてパレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ
	オウトウショウジョウバエ	2. ダントツ水溶剤2,000倍(50g)	前日まで	2回以内			
7月 特別 上旬 晩生種 中旬 対策	灰星病 褐色せん孔病 炭そ病	1. ナリアWDG2,000倍(50g)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. 収穫が長引く場合や、降雨が続く場合に散布する。また、収穫後の褐色せん孔病対策として使用してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ
	オウトウショウジョウバエ	2. ダントツ水溶剤2,000倍(50g)	前日まで	2回以内			
⑩ 接園 飛穫 散直 注意後		1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)			500ℓ	1. 褐色せん孔病の発生している園では、展着剤(アビオン-E)1,000倍加用のICボルドー66D40倍(発病前～発病初期、-)又は、クレフノン100倍加用のコサイド3000 2,000倍(収穫後、-)を使用してもよい。 2. ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。 3. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。	散布日 月日 散布量 ℓ
	褐色せん孔病	2. オキシラン水和剤600倍(166g)	収穫終了後～落葉期まで	3回以内			
	ハダニ類	3. カネマイトフロアブル1,000倍(100mℓ)	7日前まで	1回			
10 14回 日散後布		1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)			500ℓ	3. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。	散布日 月日 散布量 ℓ
	褐色せん孔病	2. オキシラン水和剤600倍(166g)	収穫終了後～落葉期まで	3回以内			
	ハマキムシ類	3. ダイアジノン水和剤34劇1,000倍(100g)	14日前まで	2回以内			
10 14回 日散後布		1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)			500ℓ	4. ダニゲッターフロアブルは新梢伸長期には新葉に薬害を生じる恐れがあるので注意する。また、開花期の水稻に本剤がかかった場合、穂に薬害を生じる場合があるので、かからないよう注意する。モベントフロアブルを使用した場合、同系統のダニゲッターフロアブルは使用しない。 5. アカリタッチ乳剤は、殺卵効果がないため、5～7日間隔の2回散布か他剤とのローテーションで対応する。	散布日 月日 散布量 ℓ
	褐色せん孔病	2. トレノックスフロアブル500倍(200mℓ)	21日前まで	5回以内			
	ウメシロカイガラムシ	3. バリアード顆粒水和剤劇4,000倍(25g)	前日まで	2回以内			
10 14回 日散後布		1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)			500ℓ	1. コスカシバの発生の多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を加用して散布する。 2. 褐色せん孔病の発生している園では、今回防除10～14日後に展着剤(アビオン-E)1,000倍を加用し、ICボルドー66D40倍(発病前～発病初期、-)を散布する。	散布日 月日 散布量 ℓ
	褐色せん孔病 樹脂細菌病	2. ICボルドー66D40倍(2.5kg)	発病前～発病初期	—			
11 月落上旬 後		1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)			400ℓ	1. 幼木及び樹脂細菌病が多い園では必ず散布する。また、石灰硫黃合剤10倍(発芽前、-)を散布してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ
	樹脂細菌病	2. ICボルドー66D40倍(2.5kg)	発病前～発病初期	—			
	コスカシバ対策	休眠期間中にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前、1回)を落葉後なるべく早い時期に枝幹に散布する。					
野そ対策(食害忌避)	野そ対策(食害忌避)	根雪直前に、フジワン粒剤(根雪前、2回以内)を200g/樹、幹周り半径約50cm範囲の落葉や雑草を取り除き均一に散粒し、レーク等で表土と混和する。			400ℓ	1. 幼木及び樹脂細菌病が多い園では必ず散布する。また、石灰硫黃合剤10倍(発芽前、-)を散布してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ